



ふきが出る、お茶が出る。その次は名産品の売人、なぜか西洋人の前は素通り。私たち日本人に集中する、友好的隣国人か？「好手」

巨大人口の悩み

窓外に目を投じる一望の畑地、麦の取入れが始まっている。全く無肥料耕作か、それとも土壌が悪いのか、作柄は日本ではみられない全く話にならない。農機具は鍬と鎌のみ。そういえばホテルで給されたミカンも梨も原種そのままで、甘味も酸味も乏しく、その形状は形容し難い。

工事現場を汽車はよぎる。昔、点していた墓跡は全く見当らない。これも文化大革命のなせる業か？エンピと一輪車の群が延と続く、新鋭機械は見当らない。この国に日本式工事が採り入れられたら、失業者が続出するからだと言う。

私たちが1人でする仕事を3人でやる。すなわち物を積む人、運ぶ人、また、その物をおろす人である。

17人の視察団に4人のガイドが付くゆえんである。そこで、冒頭の産児制限の法制化が納得。先政は雄大な古跡で国民に仕事を与えた。現政は人民に何を与えようとしているのだろうか？

車道にあふれる自転車の波

課外学園で碁を学ぶ子供たち



教育に大きな違い

成田からわずか4時間、私たちは全く異質の生活を見た、もちろん採るべき点も多く有る。

一例をみるに——、教育の問題を挙げたい。

私たちは、子息に体操教育やつめ込み主義に汲々としていることは無かるか。

中国の課外学習を見た。学校は父兄とともにその子の優れた点を見つけ、その才能を伸ばすための学園である。歌あり、踊りあり、書画あり、碁・将棋に及び、好きなことに没頭できる子等の目は輝いていた。これらは全額国費でまかなわれると言つ

私たちは、それぞれの深い感懐を抱き帰途に着いた。有形無形でいい訪中計画されたことが有意義であったことを念じながら。

故郷は遠きに在りて想うもの。私たちの町こそ、最高の故郷である。

(斉藤要記)

この訪中は、議員有志により企画されたもので、費用はすべて自費でまかなわれています。

解放感が事故をよぶ

楽しい夏休みは交通安全から

子供たちにとって待ちに待った夏休みがやってきます。

しかし、夏休みに入ると毎年、子供たちの交通事故が増え続けています。

長い休みの解放感から気持ちがゆるみ、ふだん身につけていた交通安全ルールを忘れがちになるからです。

そこでお子さんたちと、今一度交通安全についてじっくりと話し合いをしましょう。

子供の行動特性

子供は、大人が考えつかないような行動をとることがあります。子供、特に幼児の行動特性を挙げてみましょう。

●ひとつのものに関心が向くと、周囲のものが目に入らなくなる。

●手を挙げれば、クルマは止まってくれるものと思う。

●「危ないよ」というような抽象的な言葉だけでは、ほんとうの危険がわからない。

●いつも通る道路では交通ルールを守れても、初めて通る

道路では守れない。

●物かげで遊ぶのが好き。

●音のする方向を正確に判断できない。

こうした特性を心にとめて、自分の子供の個性や心身の発達に応じて、親が具体的に手本を示して指導することが何より大切です。

指導のポイント

■横断歩道では、必ずいったん止って左右を確認させる。

■信号は青でも、左折車や右折車が通ることを教える。

■自転車は左側を正しく走らせる。

■遊び場の安全性を事前に親が確認しておく。

■遊び場までの往復道路は子供と一緒に歩き、横断の仕方や危険な場所を具体的に教える。

